

完璧を求めない

水谷昌義（未修） 受験回数2回

私は昨年不合格に終わってからの約半年間、「落ちない答案を書く」ということを徹底しました。このために実践した2点を記載させていただきます。

1点目は、自分の実力を客観的に知ることです。私は落ちてすぐ十数人の合格者からアドバイスをもらい（当時の精神的苦痛は筆舌に尽くし難いものでしたが、得られたものも計り知れなかったです）、自分の客観的な弱点を知ること専念しました。これにより、自分では伝わると書いていた論証が冗長で伝わっていない、という論文試験では根本的な弱点が判明しました。これを克服すべく、論証はコンパクトにまとめたものを作成して隙間時間で諳んじつつ、声に出しながら最速で書くという訓練を繰り返し行いました。

2点目は、司法試験で問われていること、他の合格者の力量を知ることです。これを把握できる最良の教材は司法試験過去問とその出題趣旨、採点実感です。特に採点実感では、各出題趣旨毎の受験者の出来が掲載されているため、合格者であればどこまで出来てどこからは出来ず合否に影響しないのかを知ることができます。これを頼りに、論点発見段階の点、記述段階の点での合否の境目はどこにあるのかを意識して学習することが出来ました。その結果、今年度のように憲法や刑法で出題傾向が変わっても、司法試験委員が問うているであろうこと、合格者がパニック状態の中でも落とさないであろうところを意識して冷静に問題と向き合い、答案を漏れなく書くことができました。

以上が一年前不合格に終わってしまった私の実情と照らして、最も役立った意識であったと感じる点です。この体験談は個人的な意見にすぎませんが、皆様今後の学習の一助になれば幸いです。皆様のご武運お祈り申し上げます。